下記の観点でまとめる

１，取引動機・・（純新規開拓、提案融資、他行肩代わり推進等）

２，資金使途・効果・・（決算書・見積書等により資金使途の妥当性を検討）

３，返済能力・原資・・（決算書、試算表、資金繰り表より可能性を検討）

４，適用金利・・（金利設定の妥当性や他行競合など）

５，業界動向・・（同業者の現状や将来性を記述）

６，問題点・・（上記検討結果からの問題点等）

７，歩留率・・（１０％以上を目安とする）

８，その他・・特記事項など

サンプル１

短期貸出金の稟議記載例

取引動機

当金庫より提案　公共工事の選考支払資金として資金需要確認し申し込みに至った

資金使途

短期資金の申し込み

返済能力

売掛金回収資金にて返済

工事資金〇〇千円　最終回収金額〇〇千円

令和〇年〇月試算表より

売上高〇〇千円　経常損失〇〇千円

受注工事明細の売上金ｎの回収金と試算表の売上高が一致しないのは、工事がすべて完了するまでは未実施工事として計上しており、工事が完了後に売上金として計上される

適正金利

金利〇〇％にて取り組み

その他

公共工事メインに受注確保しており、取引先からの信頼厚い

本件回収原資明確で是非とも取り組みたく申請いたす

サンプル２、長期貸出金の稟議記載例

経緯

同社よりＣＳジョイントで何かまた良い提案があればほしい旨を伝えており、今回提案する形となった

代表者は８０歳以上であるが、認識面や記憶面等には懸念がない

資金使途

既存ＣＳジョイント返済資金　〇〇千円返済

諸経費等支払い資金　〇〇千円

返済能力

家賃〇〇千円あり、今回の組みなおしで毎月の返済は２本の〇〇千円であり、十分返済は可能と思われる。今回は２４０回にて申請（代表者が最終的に２４０回か１８０回にするかは検討事項でありまだ決まってはいない）

業況について

未収金として家賃が経常されているが、コロナ時期に厳しかった先のもの

現在はほぼ増えておらず、未醜聞の遅延損害金分等が経常されているとのこと

結論

代表者高齢ですが、収益方、原価法の両方で条件担保差し引き後でも十分に余力ある不動産を所有している